

障害児キャンプ指導者の ボランティア活動の継続に関する研究 —ボランティア活動に対する価値意識と役割意識について—

○綿 祐二（東京都立大学） 野川 春夫 池田 勝（鹿屋体育大学）

障害児キャンプ、ボランティア指導者、継続、価値意識、役割意識

1. 緒言

療育を目的とした肢体不自由児キャンプが始められ約 100年が経ち、いろいろな変遷をたどり現在では、肢体不自由児達の社会参加の機会や集団生活の機会の場合など社会教育を目的とした組織キャンプが増えてきている。このようなキャンプは、学校教育という領域でのキャンプではなく、ひとつのイベントとしての障害児キャンプである。このようなキャンプに応募してくるキャンパーの数は、年々増加しておりそのニーズも高まっている。しかし、キャンプ自体のキャパシティが変わらないため、参加の競争率が約 1.5倍位になり、多くの障害児達がキャンプに行けないのが現状である。

このようなイベントとしての障害児キャンプは、主催団体を中心にボランティア指導者が主に企画、運営に当たっている。つまり、ボランティア指導者が運営の鍵を握っているといっても過言ではない。キャンプでは、ボランティア指導者がキャンプ運営上の各役割（例えば、生活介助を中心に行う役割やキャンプのプログラムを進行して行く役割や食事を作ったりする役割やキャンプ全体を統括する役割など）を分担しておこなって進んで行く。このように、イベントとしての障害児キャンプの規模の拡大、長期継続化、内容の充実などさせるためには、ボランティア指導者の養成及び活動の長期活動継続がとても重要である。そこで、本研究では、障害児キャンプ指導者の継続の要因を明らかにすることを試みた。

2. 研究目的

本研究では、ボランティア指導者のキャンプ中における各役割に対する意識を明かにし、更に各役割別に役割意識を2年以上活動を継続し現在も継続中のボランティア指導者（継続者）と過去に活動を行っていたが現在は活動を行っていないボランティア指導者（非継続者）を比較検討し、ボランティア指導者の継続要因の一因を明らかにすることを目的とした。尚、本研究では、役割意識をキャンプ中の各役割に対する活動前の理解度、活動中の負担度、活動後の達成度について測定した。

3. 研究方法

- 1) 調査対象：関東近郊で行われている重度肢体不自由児のためのキャンプに参加しているとしてボランティア指導者及び過去に当キャンプに参加していたボランティア指導者を調査対象とした。
- 2) 調査期日：第1回調査 1989年8月～9月 第2回調査 1991年8月～9月
- 3) 調査方法：質問紙による集団面接法及び郵送法。有効標本数は、継続者が 151（回収率100%）非継続者が 110（回収率43.0%）であった。
- 4) 調査内容：属性、キャンプにおける役割、その役割に対する意識など
- 5) 分析方法：単純集計による記述統計、クロス集計及び継続者・非継続者群間のt検定によった。

4. 主な結果及び考察

まず、各役割間の理解度、負担度、達成度を比較した。理解度は、各役割間であまり違いが見られなかった。これは、キャンプの事前に主催団体側がキャンプのトレーニング（キャンプの勉強会）を行うため、それによって役割に対する統一的理解がなされている。負担度で見ると「生活介助役割」の負担度が高く、次いで「プログラム役割」であった。障害児と接する機会（時間）が多い役割ほど負担度が大きいことが示された。達成度で見ると「生活運営役割」が最も高く、次いで「プログラム役割」であった。

つぎに役割別に継続者・非継続者の比較を行った。「キャンパー生活介助役割」についているボランティア指導者についての役割意識は、理解度では継続者・非継続者共に同じ数値を示した。負担度については、非継続者の方が継続者よりもキャンプ中の負担度が強い。更に達成度で見ると継続者の方が非継続者よりも達成度が高い。「生活介助役割」の者の活動継続は、キャンプ中の負担度及び達成度が影響していると思われる。

「キャンプ生活運営中心の役割」についているボランティア指導者については、理解度は「生活介助役割」と同様な結果が出た。負担度は、継続者よりも非継続者の方が高く、更に達成度も継続者よりも非継続者の方が高い結果が出た。「生活運営役割」の者の活動継続は、達成度よりも負担度が影響していると思われる。

「プログラム役割」では、理解度では他の役割と同様な結果を示したが、負担度は非継続者より継続者の方が高く、達成度も継続者の方が高い結果を示した。「プログラム役割」の者の活動継続は、キャンプ中の負担度よりキャンプ後の達成度に影響していると思われる。

これらの結果より、各役割においては障害児と接する機会の多い役割ほど活動期間中の役割への負担が継続活動に影響する事が考えられる。

表1. ボランティア指導者のキャンプ参加中の役割別サンプル数

役割分類	継続者	非継続者
キャンパーの生活介助中心の役割 (食事介助、トイレ介助など)	37 (46.8%)	62 (60.8%)
キャンプ生活運営中心の役割 (キッチン、ナースなど)	20 (25.3%)	15 (14.7%)
キャンププログラム運営中心の役割 (プログラムの企画、運営など)	21 (26.6%)	24 (23.5%)

表2-2. 継続者・非継続者の役割に対する負担度の比較

役割分類	継続者	非継続者
キャンパーの生活介助中心の役割 (食事介助、トイレ介助など)	2.270 (0.769)	2.574 (0.763)
キャンプ生活運営中心の役割 (キッチン、ナースなど)	2.300 (0.801)	2.429 (0.378)
キャンププログラム運営中心の役割 (プログラムの企画、運営など)	2.714 (0.956)	2.208 (0.884)

1…全く感じない 2…あまり感じない ()…S D
3…まあ感じない 4…強く感じた

表2-1. 継続者・非継続者の役割に対する理解度の比較

役割分類	継続者	非継続者
キャンパーの生活介助中心の役割 (食事介助、トイレ介助など)	2.081 (0.595)	2.081 (0.552)
キャンプ生活運営中心の役割 (キッチン、ナースなど)	2.000 (0.645)	2.000 (0.378)
キャンププログラム運営中心の役割 (プログラムの企画、運営など)	2.143 (0.910)	2.167 (0.381)

1…大変理解した 2…ある程度理解した ()…S D
3…余り理解していない 4…全く理解していない

表2-3. 継続者・非継続者の役割に対する達成度の比較

役割分類	継続者	非継続者
キャンパーの生活介助中心の役割 (食事介助、トイレ介助など)	2.351 (0.588)	2.194 (0.568)
キャンプ生活運営中心の役割 (キッチン、ナースなど)	2.100 (0.718)	2.600 (1.549)
キャンププログラム運営中心の役割 (プログラムの企画、運営など)	2.333 (0.913)	2.217 (0.422)

1…全く達成していない 2…余り達成していない ()…S D
3…ある程度達成した 4…十分達成した